

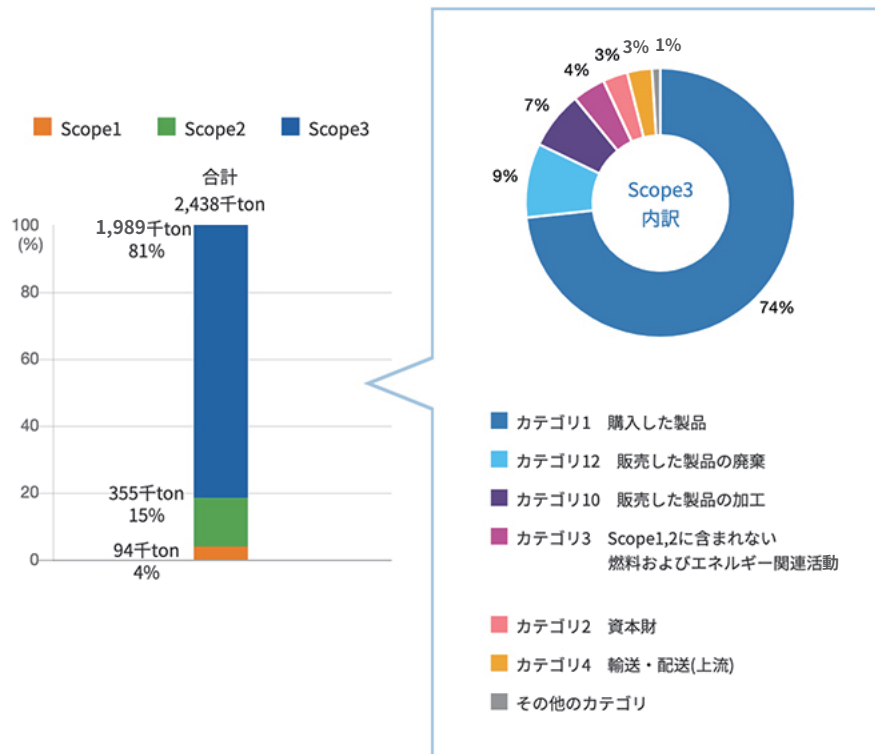


地球温暖化防止



サプライチェーンでの温室効果ガス排出量

サプライチェーンでのGHG排出量（2021年度／国内）



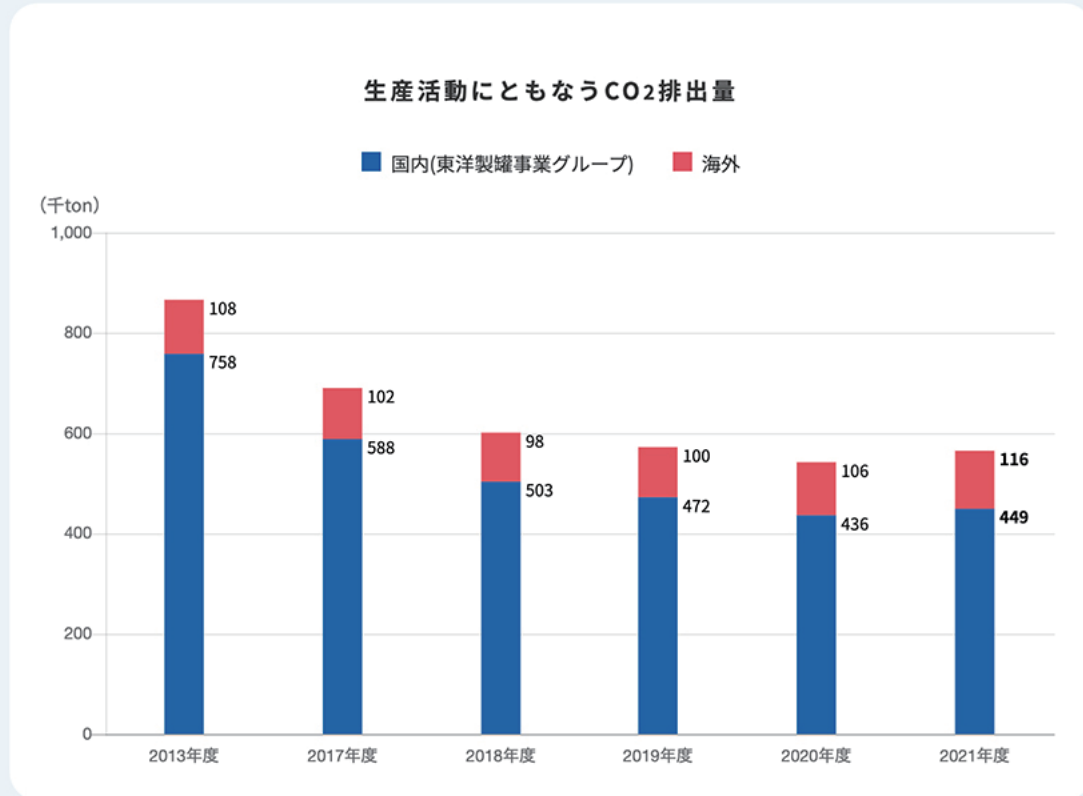
東洋製罐事業グループでは、自社からの温室効果ガス（GHG）排出量である直接排出（燃料等の燃焼にともなうScope1）と間接排出（電力使用にともなうScope2）に加え、サプライチェーンの上流および下流の排出量（Scope3）の算定を試みました。

東洋製罐グループの環境ビジョンであるEco Action Plan 2030で、Scope3のCO2排出量は2030年までに2019年度比30%削減を目指しています。

事業グループ国内事業所における2021年度のサプライチェーン全体での排出量は、2,438千tonとなり、そのうちScope3の排出量が約82%を占めていることがわかりました。さらに、Scope3の内訳では、購入した製品（カテゴリ1）の割合が約74%を占め、販売した製品の廃棄（カテゴリ12）、Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動（カテゴリ3）と続いています。このように購入した製品すなわち原材料の調達にともなうGHG排出量の削減への取り組みがますます重要となります。製品の軽量化、再生材料の利用、植物由来材料の利用などの推進を原材料メーカーと一緒に図っていきます。

来材料の利用などの推進を原材料メーカーと一緒に図っていきます。

事業活動におけるCO₂排出量（Scope1+Scope2）



エネルギー由来のCO₂排出量を削減するため、東洋製罐事業グループでは、省エネ設備への更新や、生産性向上に向けた活動が進み、2021年度の国内CO₂排出量は、449千tonとなりました。

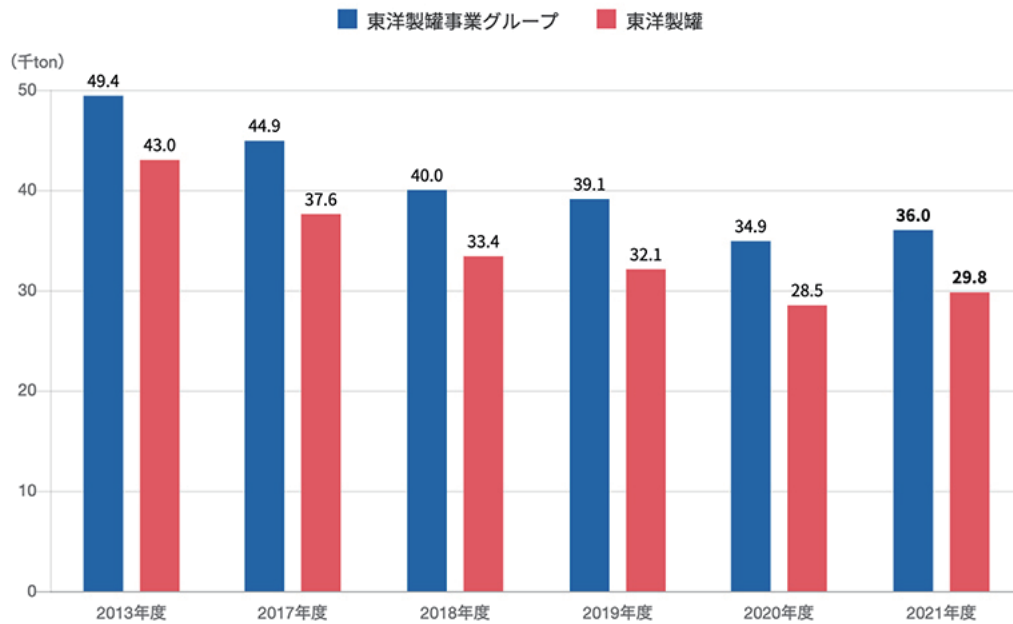
引き続き、設備更新、生産効率向上などの省エネルギーにつながる取り組みにより、削減に努めていきます。

[事例] 空調機・冷凍機・除湿機の更新

東洋製罐では、空調機・冷凍機・除湿機を用いておりますが、古い冷媒を使用している機器について高効率タイプや最新の機器に順次計画的に更新しています。2021年度に10工場にて更新しました。

物流におけるCO₂排出量

東洋製罐事業グループの物流でのCO₂排出量



モーダルシフトの推進、新型トラック導入やエコドライブの推進など輸送効率は向上しましたが、生産数量の増加にともない輸送量も増加したため、東洋製罐事業グループの物流に関する2021年度のCO₂排出量は、35,958tonと前年より増加となりました。

引き続き、モーダルシフトの活用などを進め、CO₂削減に取り組んでいきます。